

## 「JIRCAS 創立 50 周年記念国際シンポジウム 2020 運営等業務」仕様書

国際農林水産業研究センター（以下「国際農研」という。）は、開発途上地域の農林水産業研究を包括的に実施する我が国唯一の試験研究機関として課せられた責務を果たし、世界的な食料問題解決を通じた我が国の食料安定供給に寄与していくために、毎年国際シンポジウムを開催し、開発途上地域における農林水産業発展に資する観点から、様々な課題について検討を行っている。

今年、国際農研が創立 50 周年を迎えたことを記念して、「ポストコロナ時代のグローバルフードシステムをとりまく地球規模課題の展開と農林水産業研究における国際連携の役割」をテーマとした国際シンポジウムを開催する。

### 1. 適用範囲

この仕様書は、国際農研が開催する「JIRCAS 創立 50 周年記念国際シンポジウム 2020」の運営等業務に関する仕様を示すものである。

### 2. 件名 「JIRCAS 創立 50 周年記念国際シンポジウム 2020」運営等業務

### 3. 開催日時

令和 2 年 11 月 10 日（火）15:00 ～ 17:30

### 4. 開催場所

つくば国際会議場 中会議室 201（〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3）

### 5. 業務期間

契約締結日より令和 2 年 11 月 30 日（月）まで

### 6. プログラム概要

プログラム概要は、開会挨拶、来賓挨拶、祝辞、JIRCAS 50 周年-農林水産業研究における国際連携を振り返って、講演 1、講演 2、パネルディスカッション、閉会挨拶である。詳細は、別紙プログラム案のとおり。

### 7. 事務局

国際農研「JIRCAS 創立 50 周年記念国際シンポジウム実行委員会事務局」

### 8. 業務内容

- ① 国際シンポジウムの模様について、国内及び海外の参加者にライブ映像配信を行うこと。また、ライブ映像の配信のため、英語用、日本語用の計 2 回線分を確保し、合計で 500 名以上が視聴できるようにすること。
- ② ライブ配信に必要な映像と音声の機材を用意するとともに、操作等を行う人員を確保すること。ライブ映像を記録する機材（映像や音声を含む）は、登壇者のみを撮影するためのもの、MC のみを撮影するためのもの、登壇者と MC を含む広角の画像を撮影するためのものの計 3 台を配置すること。また、各機材間の映像とプレゼンテーション画面の切り替え（ビデオを含む）を適宜行うことができる人員を配置すること。さらに、音声の収集、録音を行うこと。

- ③ ライブ配信する映像には、講演タイトルと講演者の氏名を、英語と日本語のテロップとして流すこと。
- ④ ライブ配信した映像を解像度 720p 以上で録画し、シンポジウム終了後すみやかに提出するとともに、後日、ホームページ上で動画配信するための映像として、音声や映像の調整を実施した上で、シンポジウム終了後 2 週間以内に提出すること。また、オリジナルのデータも併せて提出すること。映像の著作権は、国際農研に帰属するものとする。
- ⑤ A4 版のプログラム案内について、3 案以上のデザインを作製し、英語版と日本語版で各 1 枚を提出するとともに、最終案を PDF ファイルで提出すること。提出期限は、別途事務局から指示する。
- ⑥ シンポジウム開催前日の 11 月 9 日（月）15:00～17:30 に、シンポジウム開催場所において、海外との接続を含めたりハーサルを実施すること。
- ⑦ 機材の設置及び撤去に際しては、周辺の安全に十分注意して行うものとし、万が一会場の施設や備品等に損傷等を与えてしまった場合は、請負者の責任により対処すること。
- ⑧ ディレクタ（会場責任者）の配置  
全体の運営を把握し、業務を管理する者を配置すること。会場運営に当たっては、インカムなどを使用し、スタッフと連絡を取りながら円滑に行うこと。
- ⑨ 会場の整理・整頓  
常に会場全体の整理整頓に気を配ること。
- ⑩ PC 管理に係る事項  
プレゼンテーション用及びライブ配信用のパソコンを用意するとともに、関係する機器の操作を行うこと。講演用プレゼンテーションデータ（PPT もしくは PPTX ファイル）は、事前にバックアップをとるなど、アクシデントに対応できるよう対処すること。
- ⑪ 照明・音響設備等  
照明、音響については、国際シンポジウムの進行に支障が生じないように必要な手続きを取り、操作を行うこと。
- ⑫ 水の提供  
登壇者用の水（ペットボトル）を 10 本用意し、人が入れ替わるタイミングで交換すること。
- ⑬ 通訳に係る業務
  - ・国際シンポジウムにおける日英、英日同時通訳を行うこと。
  - ・当日は、講演者と段取り等について事前打合せを行うこと。
  - ・通訳者は、同時通訳・A ランクの者とする。

## 9. 新型コロナウイルス感染対策等

つくば国際会議場の新型コロナウイルス感染防止対策に従うこと。

また、消毒液を用意し、会場入り口に設置するとともに登壇者が交代する都度、演台やマイクなどを消毒すること。

さらに、演台及び司会者台に合わせたアクリル板を用意し、それぞれ設置すること。

## 10. その他

- ① 国際シンポジウムの準備に必要な期間は、事務局と協議し十分に確保すること。
- ② 国際シンポジウムの会場及び会場に付帯する機器等（同時通訳レシーバー、同時通訳ブースを含む）は、国際農研が借上げる。
- ③ 国際シンポジウムの開始前までに、同時通訳レシーバーを座席に配置し、音量調整を行うこと。
- ④ 国際シンポジウムの司会は、国際農研が行う。
- ⑤ 参加申込みは、国際農研がホームページ上で行う。
- ⑥ 請負者は、事務局やつくば国際会議場の担当者と連絡を取り合い、業務を行うこと。

## 11. 打ち合わせ、会場下見

円滑に業務を遂行するため、業務受注後、開催前の2回程度、事務局と打ち合わせを行い、詳細を十分確認すること。

また、開催前日までに、事務局及び関係者と会場の下見を行うこと。

## 12. 定めなき事項

この仕様書に定めのない事項又は、この業務の遂行に当たり疑義を生じた場合は、事務局と協議すること。

また、新型コロナウイルス感染拡大の状況等により、仕様内容を変更する場合がある。

## 13. 情報の取扱いについて

本業務遂行上知り得た情報については、その全てを厳重に管理し、業務終了後は、受注者が責任を持って適切に処分すること。

また、いかなる情報も本業務の遂行以外の目的には一切使用しないこと。

プログラム案：

時 間	プログラム内容	講演者等
15:00 - 15:10	開会の言葉	JIRCAS 岩永 勝 理事長 (live)
15:10 - 15:20	国際農研への期待	農林水産省 菱沼 義久 農林水産 技術会議事務局長 (live)
15:20 - 15:40	パートナー祝辞	Dr. Qu Dongyu 屈冬玉 FAO 事務局 長 (video) Dr. Juergen Voegele 国際農業 研究協議グループ (CGIAR) シス テム理事会 (video)
15:40 - 15:50	JIRCAS 50 周年 - 農林水産業 研究における国際連携を振り返 って	JIRCAS 小山 修 理事 (live)
15:50 - 16:10	カウンターパート祝辞	農研機構 松田 敦郎理事 (live) 中国農科院 (video) タイ農業局 (DOA) (video) ブルキナファソ 環境農業研究所 (INERA) (video) マダガスカル 国立農村開発応用 研究センター (FOFIFA) (video) パラグアイ 農牧総合試験場 (CETAPAR) (video)
16:10-16:30	講演 1：コロナ禍が炙り出した フードシステムの課題	FAO Dr. Joseph Schmidhuber (live)
16:30-16:50	講演 2：ポストコロナ地球規模 課題と農業技術開発アジェンダ	JIRCAS 飯山みゆき (live)
16:50 - 17:20	パネルディスカッション：国際 連携の在り方 モデレータ：JIRCAS 齋藤 昌義 企画連携部長	JIRCAS 岩永 勝 理事長 (live) JICA 萱嶋 信子理事 (live) 世界野菜センター (World Vegetable Center) Dr. Wopereis (remote) 国際熱帯農業研究所 (IITA) Dr. Sanginga (remote)
17:20-17:30	閉会の言葉	JIRCAS 小山 修 理事 (live)

\* オンライン・日英同時通訳（日本語・英語のチャンネルで、リモート参加者と接  
続）